

◆生き物調べの中間報告です

海老沢秀夫

生き物調べのカリスマ・リーダー海老沢学監がまとめてくれた、皆さまお待ちかねの中間報告。必読です！（編集子）



ここ数年、フィールドの上ノ原で続けている「生き物調べ」の中間報告です。次ページに掲載したリストは、7月19日（日）、東京都中央区の「女性センターブーケ21」で開いた「勉強会」の資料をもとに作成しました。植物類は、講座「 commons 村・ふじわら」の「生き物調べ」プログラムで調べたものが中心です。チョウ類、鳥類、昆虫類の大部分は、多葉田さん（会員）によるものです。

ススキ草原は一様ではない

リストにあがった草原部分の植物の種類は、

草本類	94
シダ類	2
木本類	38

です。中には名前の「あやしい」ものもありますが、おいおい正確なものにしていきたいと考えています。また、調査が進めば種類はもう少し増えるでしょう。

ところで、上ノ原のススキ草原は、ススキ一色の一様な草原ではありません。おおよそこんな風に分けることができそうです。

- (1) 入口広場
- (2) ススキ草原(やや貧栄養地)
- (3) ススキ草原(やや富栄養地)
- (4) 林縁部分
- (5) 十郎太沢沿い

(1)の入口広場は、機械による刈り払いや人の踏みつけなどの外圧が強い場所です。そのため、背が低くて頑丈なノシバやオオチドの群落が見られます。踏みつけがさらに激しい場所では、オオバコも広がっています。また、セイヨウタンポポやニセアカシアなどの外来種も確認されました。

ススキ草原は2つです。

(2)は、斜面上部の凸地部分や、ゴルフ場方面の刈り取りが最近まで行われていたと思われる場所です。有機物が比較的薄く、ススキ以外にはワラビが目立つところ。また、日当たりのいい草地の縁にはウツボ

グサなどが見られます。



(3)は、土が少ししっとりしています。下にあげるような、いわゆる「草原の花」たちが混じる場所です。

ススキ、オオアブラススキ、トダシバ、ヤマハギ、オカトラノオ、オミナエシ、ツリガネニンジン、ノアザミ、ハバヤマボクチ、ヨツバヒヨドリ、アキノキリンソウ、シラヤマギク、コウゾリナ、オトコヨモギ、オオタチツボスミレ、キジムシロ、ミツバツチグリ

(4)の林縁部は、ミズナラ林とススキ草原の接点付近です。土は肥え、湿潤で、タニウツギやカエデ類などが生えて疎林状態のところもあります。クロバナヒキオコシ、ヤマエンゴサク、タニギキョウ、シロバナエンレイソウ、ヒトシズカ、ニリンソウなどが見られます。

(5)の十郎太沢沿いは、上ノ原を流れる小川です。低木のコマユミが岸辺を覆い、ニリンソウやヤグルマソウが群落を作っています。

というわけで、たった10ヘクタールの上ノ原のススキ草原ですが、いくつもの生態系がモザイク状に混じり合っていることがわかりました。上ノ原の生物多様性は、こうした異なる環境がいくつも混じり合うことで保たれているとも言えます。上ノ原の管理も、こうした多様な環境に配慮した方針が求められます。



生物多様性は命のつながりの風景

ページのチョウ類リストに、「食草」の覧を加えました。

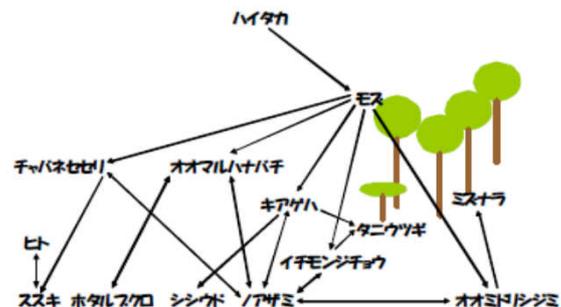
チョウの幼虫は特定の植物を食べて育ちます。はたして上ノ原のチョウたちは、草原一帯で食草を確保できるのかどうか。結果は、何とか近くの植物で間に合いそうでした。

草原はチョウの宝庫とされています。それは、食草だけでなく、成虫になってから吸蜜する花が豊富にあることも関係しているのでしょう。好みの花もあるようで、旅するチョウ、アサギマダラはヨツバヒヨドリが目当てです。ヒメシジミはナワシロイチゴのまわりをよく飛んでいました。草原の植物とチョウは、地球上に草原が広がった頃から、互いに深く関係し合って進化してきたのでしょう。



上ノ原には、チョウ以外にもいろいろな生き物が暮らしています。たとえばリストにあげた野鳥たち。これもたまたま上ノ原にいたというよりは、草原をねぐらにしたり、草原の他の生き物をエサにしたりして、深いつながりの中で暮らしています。たとえばホオジロ。ススキの中で巣を見つけたことがあります。オスはよく、草原の中にぽつんと生えたシラカバの梢なんかでさえずっています。エサになる昆虫もススキ草原にはいっぱいいます。

上ノ原にはこうして、いろんな生き物が暮らし、食べたり食べられたり、受粉の仲立ちをしてもらったりしながらいろんな関係で結びついています。上ノ原の生物多様性は、生き物たちの命のつながりの風景そのものなのです。下の図は、その関係を想像して模式的に示したものです。



フィールド(草原部分)の植物

草本類 94種

●キク科
ヤマハハコ
カセンソウ
センボンヤリ
ヨツバヒヨドリ
アキノキリンソウ
ヒメジョオン
シラヤマギク
ゴマナ
ノコンギク
フキ
オオハンゴンソウ
ハンゴンソウ
オカオグルマ
ノコギリソウ
ヨモギ
オオヨモギ
オトヨモギ
ノハラアザミ
ノアザミ
ハバヤマボクチ
コウゾリナ
セイヨウタンポポ
ニガナ
●キキョウ科
ツリガネニンジン
ソバナ
タニギキョウ
ホタルブクロ
ツルニンジン

●オミナエシ科
オミナエシ
オトコエシ
●アカネ科
アカネ
クラムムグラ
●オオバコ科
オオバコ
●はまうつぼ科
ナンバンギセル
●ゴマノハグサ科
シオガマギク
●シソ科
ラショウモンカズラ
ウツボグサ
イストウバナ
クルマバナ
クロバナヒキオコシ
ヒキオコシ
カメハヒキオコシ
●サクラソウ科
オカトラノオ
コナスビ
●セリ科
オオチドメ
シシウド
●ウコギ科
ウド
●アカバナ科
ヤナギラン
メマツヨイグサ

●スマレ科
スマレ
オオタチツボスミレ
タチツボスミレ
ニオイタチツボスミレ
ツボスミレ
●ヒメハギ科
ヒメハギ
●ツリフネソウ科
ツリフネソウ
●フウロソウ科
ゲンノシヨウコ
●マメ科
ノササゲ
ミヤコグサ
アカツメクサ
●バラ科
キジムシロ
ミツバツチグリ
オオダイコンソウ
キンミズヒキ
●ユキシタ科
ヤグルマソウ
トリアシシヨウマ
●アブラナ科
オオタネツケバナ
ハタザオ
●ケシ科
タケニグサ
ヤマエンゴサク
ミヤマキケマン

●キンポウゲ
ウマノアシガタ
ボタンツル
イチリンソウ
ニリンソウ
アキカラマツ
サラシナシヨウマ
●タデ科
ミスヒキ
イヌタデ
イタドリ
●イラクサ科
クサコアカソ
●センリョウ科
ヒトリシズカ
フタリシズカ
●ラン科
ネジバナ
●ヤマノイモ科
ヤマノイモ
カエデコロ
●ユリ科
ヤマユリ
オオウバユリ
シロバナエンレイソウ
●イネ科
イチゴツナギ
トダシバ
オオアブラススキ
ススキ
ノシバ

シダ類 2種

●ハナワラビ科
フユノハナワラビ
●コバノイシカグマ科
ワラビ

木本類 38種

●スイカズラ科
ミヤマガマズミ
タニウツギ
●モクセイ科
マルバアオダモ
●リョウブ科
リョウブ
●マタタビ科
マタタビ
●ブドウ科
ヤマブドウ
●キブシ科
キブシ
●カエデ科
ウリハダカエデ
ヒトツバカエデ
アカイタヤ
コハウチワカエデ
ハウチワカエデ
●ニシキギ科
ツルウメモドキ
クワツル
ヒロハツリバナ
マユミ
コマユミ

●ウルシ科
ヤマウルシ
●ミカン科
キハダ
●マメ科
ニセアカシア
ヤマハギ
●バラ科
アズキナシ
ウワミズザクラ
オオヤマザクラ
ナワシロイチゴ
クマイチゴ
モミジイチゴ
●クスノキ科
オオバクロモジ
●クワ科
コウゾ
キブクワ
●ブナ科
グリ
ミスナラ
●カバノキ科
クマシデ
ケヤマハンノキ
ウダイカンバ
シラカバ
●ヤナギ科
ヤマナラシ
ハッコヤナギ

フィールドのチョウ類32種と食草(推定)

●セセリチョウ科
ギンイチモンジセセリ ススキ
コキマダラヒカゲ ススキ
スジグロチャバネセセリ イネ科
ダイミョウセセリ カエデコロ
チャバネセセリ ススキ
●アゲハチョウ科
アゲハチョウ キハダ
ウスバシロチョウ ヤマエンゴサク
キアゲハ シシウド
●シロチョウ科
ウスバシロチョウ ヤマエンゴサク
キチヨウ ヤマハギ
スジグロシロチョウ ハタザオ
モンキチヨウ マメ科
モンシロチョウ アブラナ科
●シジミチョウ科
オオミドリシジミ ミズナラ
コツバメ ミヤマガマズミ
ショウザンミドリシジミ ミズナラ
ツバメシジミ ヤマハギ
ヒメシジミ ヨモギ、スマレ類
メスアカミドリシジミ オオヤマザクラ
●マダラチョウ科
アサギマダラ
●タテハチョウ科
アカタテハ イラクサ類
イチモンジチョウ タニウツギ
ウラギンヒヨウモン スミレ類
エルタテハ シラカバ
キベリタテハ シラカバ
コムスジ ヤマハギ
サカハチヨウ イラクサ類
ヒオドシチョウ ヤナギ類
ヒメアカタテハ ヨモギ、ヤマハハコ
ミドリヒヨウモン スミレ類
メスグロヒヨウモン スミレ類
ルリタテハ ヤマユリ
●ジャノメチョウ科
ヒカゲチョウ クマイザザ
ヒメキマダラヒカゲ クマイザザ
ヤマキマダラヒカゲ クマイザザ

フィールドのチョウ類
1975年「群馬県報告書」
61種

●セセリチョウ科
ミヤマセセリ
キバネセセリ
ギンイチモンジセセリ
コチャバネセセリ
ホソバセセリ
キマダラセセリ
チャバネセセリ
オオチャバネセセリ
イチモンジセセリ
●アゲハチョウ科
ウスバシロチョウ
キアゲハ
アゲハチヨウ
クアゲハ
オナガアゲハ
カラスアゲハ
ミヤマカラスアゲハ
●シロチョウ科
キチヨウ
スジボソヤマキチヨウ
ヤマキチヨウ
モンキチヨウ
スジグロシロチョウ
●シジミチョウ科
ミズイロオナガシジミ
メスアカミドリシジミ
ミドリシジミ
ウラナミアカシジミ
アカシジミ
ジョウザンミドリシジミ
トラフシジミ
カラスシジミ
ベニシジミ
ゴマシジミ
オオゴマシジミ
ヒメシジミ
ルリシジミ
●マダラチョウ科
マダラチョウ

タテハチョウ科

●タテハチョウ科
テングチョウ
コヒヨウモンモドキ
ウラギンシジモウモン
ヒヨウモンチョウ
コヒヨウモン
ミドリヒヨウモン
メスグロヒヨウモン
ギンボシヒヨウモン
イチモンジチョウ
カタテハ
サカハチチョウ
シータテハ
キベリタテハ
クジャクチョウ
●ジャノメチョウ科
エルタテハ
ヒメアカタテハ
アカタテハ
コムラサキ
ジャノメチョウ
ヒメウラナミジャノメ
ツマジロウラジャノメ
ウラジャノメ
ヒメキマダラヒカゲ
クロヒカゲ
クロヒカゲモドキ
キマダラヒカゲ

鳥類 昆虫類

●カラス科
ハシブトガラス
●スズメ科
ニューナイスズメ
●アトリ科
イカル
ウソ
マヒワ
●ホオジロ科
ホオジロ
●セキレイ科
キセキレイ
●シジュウカラ科
ヒガラ
●モズ科
モズ
●ヒタキ科
オオルリ
●ウグイス科
ウグイス
●ツバメ科
ツバメ
●ホトギス科
カッコウ
●タカ科
ハイタカ
トビ
●カミキリムシ科
ゴマダラカミキリ
ハネヒロハナカミキリ
フタスジハナカミキリ
●キリギリス科
コバネヒメギス
ウマオイ
●コガネムシ科
メメコガネ
●バッタ科
ナキイナゴ
キヤマフキバッタ
●ハムシ科
イタドリハムシ
カミナリハムシ
ヨツボシナガツツハムシ
●ハンミョウ科
マガタマハンミョウ
●トンボ科
アキアカネ
ナツアカネ
●オニヤンマ科
オニヤンマ
●コオロギ科
カンタン
●シリアゲムシ科
スカシリアゲムシ
●ミツバチ科
オオマルハナバチ



■秋のいきもの調べ

増井太樹

－上ノ原は昆虫たちの楽園でした！

上ノ原の草原で昆虫を見たことがあるでしょうか？もちろん、少し歩くだけでバッタやチョウなどを私たちは見ることができますし、耳を澄ませば、虫たちの鳴き声を聞くことができます。では、その虫たちがどれくらいの種類いるか、どのような色、形をしているかご存知でしょうか？

実は私も昆虫については、まったく知りません。そこで私の知り合いで昆虫に詳しい「世田谷すみればネット」の山崎氏に協力してもらい、9月に昆虫調査を行いました。



調査を行った日は晴天。山崎氏は草原に到着するなり早速、虫取り道具を準備し、手際よく虫を探していきます。たたき棒と、たたき網（ビーティングネット）を使いスキについている昆虫を探していきます。バッタやハムシ、カメムシの仲間など、様々な昆虫が網の上に落ちてきます。中には2～3mm程度の小さな虫もいます。私には小さい昆虫はなかなか見分けがつかないのですが、「時期が違えば、また違ったものが見つかるだけだね」と言いながら山崎氏はどんどん進んでいきます。

トンボやハチなどのたたき棒・たたき網で捕まえる事のできない昆虫は捕虫網を使って捕まえていきます。アキアカネやマユタテアカネ（次頁写真）等のトンボ類が多くいたほか、訪花昆虫として重要とされている、オオ



マルハナバチやトラマルハナバチも確認されました。チョウ類ではギンボシヒョウモンやキベリタテハといった群馬県の絶滅危惧種とされているチョウが生息していることもわかりました。そして、私たちが維持してきたこの草原で多くの貴重な生き物が暮らしていることがわかりました。

では、森林はどうでしょうか？草原の調査をした後に、森林内の調査も行いました。草原内でも同様の調査を行



いました。森林内ではゾウムシの仲間やカミキリムシの仲間がいましたが、中でも私が驚いたのが「トワダオオカ」という蚊の仲間です。蚊といえば私たちににとっては迷惑な存在と思いがちですが、この蚊は血を吸わず花の蜜を吸うという蚊で、また日本の蚊の仲間でも最大く日本各地で絶滅危惧種となっているものです。このような希少で私たちの認識を変えるようなものを、この上ノ原では数多く見ることができます。

調査を終えて山崎氏に話を聞くと、「面白いいきものがたくさんいてビックリした。来年もまた調査に来たい」ということを言っていました。来年は、コモンズ村のプログラムの一つとして調査も行いたいと思いますので、皆さんもぜひ、普段接することの少ない、昆虫の世界にいらしてください。

●上ノ原の昆虫リスト

2012年9月に2回行ったいきもの調べでは、60科144種の昆虫が確認されました。コウチュウ目（ゾウムシやテントウムシ、カミキリムシの仲間など）が56種、カメムシ目（アワフキムシやカメムシの仲間など）が40種確認され、中には絶滅危惧種も確認されています。

これだけ様々な希少な昆虫がいるだけでも驚きなのですが、ヒウラヒサゴナガカメムシは約40年ぶりの発見になるかもしれないほどの大発見で、今まで日本で5個体しか確認されていないという、とっても希少な昆虫です。伐採されたミズナラの枯葉についており、（確かなことはいえませんが）私たちが自然に様々な働きかけをして、いろんな環境を作り出していることが、このような希少ないいきもの生息場所を守っている可能性があります。

さらに調査中に、もう一つの大発見！調査中にクマタカが上ノ原の草原を飛翔しているのが確認されました。草原の背後の森林から飛び立ち、武尊山の方向に飛んでいきました。羽の色や羽に欠損がないことから若鳥とも考えられ、もしかしたら巣が近くにあるのかもしれませんが。いずれにしろ、上ノ原の草原をクマタカも利用していることは間違いないようです。私たちが維持している草原にこんなにたくさんいきものがあること、これこそが私たちの活動の成果かもしれませんね。いきものにぎわう上ノ原をこれからもずっと残していきたいと思います。9月の調査でした。



表：上ノ原で確認された希少な昆虫類

目名	科名	和名	確認地区		備考
			草地	林地	
バッタ	カンタン	カンタン	○		群馬県：準絶滅危惧
	キリギリス	ヤブキリ	○		群馬県：絶滅危惧Ⅱ類
カメムシ	ハネナガウンカ	アカハネナガウンカ	○		群馬県：準絶滅危惧
	ナガカメムシ	ヒウラヒサゴナガカメムシ		○	原記載以降5個体の記録のみ
ハエ	カ	トワダオオカ		○	群馬県：注目
チョウ	タテハチョウ	キベリタテハ	○		群馬県：準絶滅危惧
		ギンボシヒョウモン	○		群馬県：準絶滅危惧